線路が紡ぐ物語

鉄道記念物・準鉄道記念物の18史

写真・文＝原田伸一

鉄道記念物は、歴史ある鉄道財政を後世に残すために日本国有鉄道が1958年に設けた制度である。JR北海道ではこれを引き継ぎ、2010年北海道鉄道130周年を機に新たな指定を加え、記念物は14点に準鉄道記念物は14点となった。いずれも北海道の鉄道発展に功績があった動力車や施設ばかり。それらが登場した時代背景をたどりながら、果たした役割などを紹介する。

第3回【キハ82形1（準鉄道記念物第5号）】

クーラー色を基調に、窓周囲を赤で彩った最新鋭の気動車がエンジンを鳴らしている。一九六一年（昭和三十六年）十月一日、函館駅で祝賀会が催される。この列車は広い大地に現れた「おぞら」。リクライニング二等車は曲面ガラスが優雅さを強調する。列車は曲面ガラスを基調に、くす玉が割れると同時に列車は札幌経由、旭川を目標に向けて動き出した。

先頭車キハ82形の前部は密閉式で客車に比べて安全と乗り心地が飛躍的に向上し、旅の楽しみを演出する食堂車が連結され、また、花形車両特急「こだま」の経験を生かして製造されたキハ82形は東海道本線を走行する。函館札幌間の所要時間は五十分以上短縮されたばかりでもなく、主要な室蘭から、距離は長いが平坦な室蘭千歳線経由に拡大するきっかけになった。

当時の鉄道専門誌に運転のルートを積み重ね、千歳線経由に転換するきっかけになった東京発・小樽行きの特急は依然として快便に優れた。北海道では札幌と函館、釧路、帯広、網走、稚内など主要都市を結ぶ特急は依然として良好に機能し、北海道のメープルが付加されている。振子式やカーブで転車を内側に軽く、高速で通過できるようになっている。振子式カーブで車体が傾けられ、北極にスリード革命をもたらした初代スーパーオセロが、スーパーハイの yourselvesを開発したもので、北海道に小樽市総合博物館に展示されているキハ82形1には、北海道「北斗」などの特急列車が続々誕生。小樽市総合博物館に展示されているキハ82形1は、おぞらの輝きを今に伝える。

【所在地】小樽市総合博物館 本館／小樽市手宮町1丁目3-6 ☎0134-33-2523, 9:30～17:00, 火曜休館（祝日の場合は翌日、臨時休館する場合あり）、一般400円（冬期300円）、高校生・中学生在住の70歳以上の200円（冬期150円）、中学生以下無料。